

さくらだより

vol. 41

2024年5月20日発行

広がるさくらグループの

可能性 New Start for SAKURA Group.

株式会社 三和鋼産の 紹介

「さくらグループ」として新たなスタートを切った今春。共に高みを目指す仲間についてもっと知りたい!そんな声にお応えして今回ご紹介するのは、鍛冶工事を主とする職人集団、三和鋼産。三和鋼産が持つ独自の強みと、さくらグループ加入における新たな動きについて、高橋さんにお話を伺いました!



株式会社三和鋼産
たかはし けいた
高橋 圭太さん

三和鋼産について

鉄骨に関わる工事を一手に担う プロフェッショナル集団

鋼構造物に関する鉄骨工事、鍛冶工事をを行う会社です。メイン事業は鍛冶工事ですが、元請けからの依頼内容によっては、機械設備工事や鉄骨の組み立ても行います。さくらグループとなったことを機に、社名を「新栄」から「三和鋼産」に変更。従来の取引先にさくらのお客様が加わったことで、仕事の幅が大きく広がりました。特に変わった点は、鉄骨製作にも携わるようになったこと。高橋社長からのお声かけや、知識と経験豊富なさくらの皆さんによるアシストのおかげで、新しい業務にも試行錯誤しながらチャレンジすることができています。

三和鋼産の強み

得意を活かした柔軟な対応

職人それぞれ得意分野を持っていることが大きな強みです。鍛冶工事だけでなく、とび工事、鉄鋼工事、機械の据付など、さまざまな工事を経験している職人が揃っています。そのため職人同士で知識や技術を共有することで、柔軟な対応ができる体制づくりを続けてきました。今まで培ってきた「状況に応じて柔軟に対応する力」は、さくらグループでも活かすことができるのではないかと考えています。

さくら株式会社の高橋社長との出会い

経緯説明のために出張先の栃木まで来てくれた!

1～2年前、当社社長の佐藤から「さくらグループに入ろうと思う」という話があったことがきっかけでした。当時私は副社長という立場で栃木に出張中だったのですが、高橋社長はわざわざ出張先まで経緯を説明しに来てくださいました。初めてお会いした高橋社長の印象は「ちょっと怖い人」(笑)しかし話してみると印象がガラリと変わり、人見知りの私でもスムーズに話すことができました。会話の流れやリズムが心地良く、人柄の良さがうかがえたことを覚えています。

三和鋼産から見たさくらの魅力

技術、知識、心の温かさ

高橋社長をはじめ、社員の皆さんが、高い技術力と豊富な知識を持っているところです。そのレベルの高さは、現場での動きや発言からすぐに読み取れるほど。連携体制も優れていると感じます。また、さくらの皆さんは面倒見が良い方ばかりで、三和鋼産が働きやすい環境を率先して作ってくれています。同じグループの仲間として歓迎してくれている印象があり、ありがたい限りです。

三和鋼産で働く社員の特徴

自分の仕事に責任を持つ 職人魂と仲間意識

一人ひとりの性格や得意分野は違いますが、個々で目標を設定し、達成に向けて努力を惜しまない職人ばかりです。その責任感の強さから、ときには言い合いになることも。意見を交わし合った結果一つになることで、三和鋼産らしさが生まれているのかもしれない。スキルアップのために積極的に資格を取得するなど、向上心を持ち続けているところも魅力の一つです。

三和鋼産の社員に共通しているのは「楽しく仕事をしたい」という思い。どこの現場でも、誰とでも仲良くなれるところは大きな強みだと思います。皆仲間想いで、子どもの行事があるときには業務を調整し合うことも。仕事とプライベートのメリハリをつけることも大切にしています。



▲今野 摩央さん



▲佐藤 恭平さん(左)、高橋 圭太さん(右)

三和鋼産の社員たち

Message. 皆さんへメッセージ

さくらグループへの貢献と成長を目指す

グループの一員として、まずはさくらが認める会社を目指します。

「三和鋼産」となったばかりで迷惑をかける場面も多いと思いますが、

さくらの文化や現場に貢献できるよう努力してまいります。

さらに、グループに三和鋼産が加わったことが良い刺激となり、

相乗効果が生まれると嬉しく思います。

いずれは「さくらグループって良い会社だね」と思ってもらえるような会社を

目指したいと思っています。



こ こ が 他 社 よ り 優 れ て い る !

さくらの魅力

他社とさくら株式会社を比較して、特に優れていると思う部分を紹介していただくこの企画。今回は専務の千葉さんにお話を伺いました!創業メンバーの1人でもある千葉さん。会社のどなたとどこに一番の魅力を感じているのでしょうか?

さくら株式会社ならではの良いところは……

① 人に恵まれているところ

東日本大震災を機に仲間同士で連絡を取り合い、一緒に立ち上げたのが当社です。創立時のメンバーは6名。いずれも、ずば抜けて高い技術を持った人たちばかりです。私を含むその6名は誰一人抜けることなく、今も会社に在籍中。このことから、いかに居心地の良い環境であるかが、おわかりいただけるかと思えます。

② 優れた人材育成能力も強みの1つ

一人ひとりの技術力もさることながら、教え方が上手であることも初期メンバーのすごいところ。しっかりとしたお手本を見せつつ、質問があればその都度丁寧に答える。優しく教えてくれるおかげで、頼もしい後進もどんどん育っています。態度が厳しいのは私くらいでしょうか(笑)1人くらい嫌われ役がいたほうが、現場の緊張感を維持できると思います。

③ 将来有望な若手も日々成長中!

2023年からは、若手社員向けに能力テストを始めました。何に適しているか、適していないかが数値でわかるのですが、ときには意外な結果が出ることも。伸び悩んでいる印象の若手が、実は高い仕事適性を持ち、リーダー適性もあることがわかったのです。あとはこちらが少し手助けしてあげれば、もっと上に行けるはず。その方に限った話ではありませんが、当社は初期メンバーから若手まで、本当に人に恵まれていると思います。



ちば しんや
専務 千葉真也さん

創業メンバーとの写真



さくら株式会社で長く頑張ってきた理由

責任とライバル意識、そして果てなき上昇志向

1つは、従業員を食べさせていかなければならないという責任感。もう1つは、他社へのライバル意識でしょうか。負けず嫌いな気質のため、「あの会社には負けたくない!」という意識を常に持って頑張ってきました。ライバルがいるほうが燃えるタイプです(笑)とはいえ、そういった上昇志向は私よりも社長のほうが強いかもしれません。

今ではグループ会社2社とホールディングス化し、売り上げは16億までいきましたが、私たちとしてはさくら単体で20億を目指しています。またグループ会社についても、うまく現状の良さを活かしつつ、今後に向けて社内改善を進めていければと思っています。そのために、当社の社員を外向させるなど、会社同士の交流も大切にしています。

若手社員へメッセージ

難しいことに直面したときは、後回しにするのではなく、まずは挑戦してみてください。最初はできないかもしれませんが、焦らず少しずつステップアップしていけば、いずれは身につきます。1つずつ着実に覚え、前に進んでいきましょう。

“ 腕 ”

さくら株式会社の社員の

第2弾

木戸さんの 凄い腕を紹介

非破壊検査歴20年、ダイヤモンドコアを使った静解体を含む作業のキャリアは35年。今回紹介するのは、2つの技術を兼ね備えた技術力の柱として、当社を牽引する木戸さんです。業務内容から若手へのアドバイスまで詳しく伺いました。



非破壊検査部 部長

きど まさひろ
木戸正秀さん

現在の業務内容

非破壊検査とダイヤモンドコアの静解体の二刀流

非破壊検査とは、既存のコンクリート構造の建物の壁や床の埋設物を探知する仕事です。体のレントゲンと同様にX線装置を使って、コンクリート内部に電気の配管や鉄筋がないかを調査します。埋設物がないことを確認後、ダイヤモンドコアという機械で穿孔工事に入ります。非破壊検査において、「X線作業主任者」の国家資格保持者がいなければ検査のための機械の購入も、現場での作業もできません。現在資格保有者は私のみですが、他2名も資格を取得できるように日々精進しています。

一番得意とする技術

ダイヤモンドコアを用いる静解体

技術が最も役立っていると感じるのは、X線作業主任者なくしてはできない非破壊検査と、ダイヤモンドコアを用いた静解体。静解体は、騒音や粉塵を出さずにコンクリートを解体する技術で、私が一番得意な作業です。ダイヤモンドコアのみで仕事をする競合他社が多いため、付加価値を付けようと思い、X線作業主任者の資格を取りました。

どちらか一方の作業だけだと1つの現場の状況しか見えず、次の現場の段取りに影響します。しかし両方でできれば自分の判断だけで物事を進められ、外注費もかからず、利益率の大幅アップが見込めます。両方でできる人間は少なく、私ほどノウハウを持っている者はいません。依頼する業者が1社で済むことはお客様にとってメリットであり、当社の強みと言っても良いのではないのでしょうか。

技術力を活かし、やりがいを感じた仕事

ノウハウを駆使して乗り越えたマイナス25℃の現場

すべての現場にやりがいを感じます。打ち合わせからX線、ダイヤモンドコアの段取りを描き、その場で即決し、すべてを自分の判断で行える。これ以上のやりがいはありません。誰にでもできる仕事ではないため、非破壊検査からダイヤモンドコアの静解体まで当社1社が担い、お客様から絶大な信頼を得ていることにも誇りを持っています。

これまでで最も苦労した現場は、横浜冷凍物流センター。マイナス25℃の環境下には人間は1時間もいられません。ダイヤモンドコアの工事は水を使うため、凍結を防ぐ対策も必要でした。通常の現場での1日の仕事量を10とすると、この現場は2~3しかできません。あまりにも進行が遅いと利益につながらないため、人員を増やして1時間交代の作業にするなど試行錯誤の連続でした。以前経験したマイナス15℃の山の上に架かる橋の耐震補強工事のときのノウハウを活かし、なんとか完工しました。

若手社員へのアドバイス

自分のために二刀流を目指してほしい

第一に、安全を考えること。その上で技術を磨きましょう。非破壊検査とダイヤモンドコアの静解体の両方ができれば、評価され、仕事の幅も広がります。資格の勉強のコツは、過去問題を毎日少しずつやってみることと、「受かる!」と強く思うこと。焦らず、目の前のやるべきことを少しずつ積み上げましょう。また現場では感覚が大事なため、こと細かに教えたところでできるものではなく、経験を積むしかありません。私の仕事を注意深く見れば、注意すべき点が見えてくるはず。わからないことがあれば遠慮なく聞いてください。